

- ・ 手引きを活用して全体のレベルアップを図るとともに、社会実験として、モデル地区での地域と連携したツアー造成や広報の展開、インバウンド対応を実施していく必要がある。
- ・ 得られた知見を活用しながら、中長期的な取り組みを展開していく必要がある。

## 2020年に向けての取り組み

## ～ インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト～

### 【プロジェクト・メニュー】

#### 1. モデル地区での社会実験の実施

→「勘所(かんどころ)」を踏まえて社会実験を実施し、具体的な知見を得る。

#### 2. 国内外に向けた魅力ある広報を展開

→インフラツーリズムの認知度を高め、来訪者の増加を図る。

#### 3. 訪日外国人旅行客のニーズを把握したインバウンド対応

→増加する訪日外国人旅行客の旅行ニーズを把握する。

### インフラ施設と地域との連携 (イメージ)



## 将来的な取り組み

- ・ インフラツーリズムのさらなる拡大
- ・ 民間事業者の参入によるさらなる展開
- ・ 地域とのさらなる連携強化
- … ガイドの育成や情報発信の段階など
- … 受け入れ枠拡大のための民間事業者参入の検討など
- … 周辺観光資源と連携した地域に滞在させる仕組みづくりなど

# インフラツーリズム拡大の手引きー試行版ー(概要)

## 手引きについて

- ・インフラの魅力を引き出す工夫などを「手引きー試行版ー」としてとりまとめ。
- ・今後、「2020年に向けての取り組み」等を進め、引き続き有識者懇談会での議論を踏まえ拡充予定。

## 推進の理念

- ・インフラツーリズム拡大の考え方を整理。

●インフラツーリズムは、インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの。

## 勘所(かんどころ)

- ・インフラツーリズムの基本となる土木広報に、「 $+ \alpha$ の付加価値をどう付けるか」「持続的に展開していくか」といったポイントを「勘所(かんどころ)」として整理。

1.人を呼び込むための工夫

2.人を受け入れるための工夫

3.持続的に展開するための工夫

### 【例】

#### 【地域との連携】



1) 周辺観光資源との組み合わせ

インフラツーリズムを地域活性化に繋げるため、観光客が地域で滞留するように周辺観光資源と連携する。

